

す な お

令和4年6月号

新葛城分教會長挨拶

二宮  
真介

このたび令和四年四月二十六日、教祖のお許しをいただき、葛城分教会十代会長として二宮真介が就任しました。歴代九人の教会長の思いを受け継ぎ、そして、皆様の期待を背負うこととなり大変重圧を感じてみると共に、私を選んで下さった教祖の親心を思うと、とても幸せな気持ちでいっぱいです。

私は教長の職務の傍ら、世間で仕事をしておられます。それは今後も続けていきます。この事に関して賛否いろいろな意見がありますが、道のため、おたすけのため、人に喜んでもらえるためなどんな事でもチャレンジする価値があると思っています。長年続けてきたことはもちろん大切です。しかし、変化することによつて親神様、教祖が喜んでくださるのだとしたら、それは大変でも難しくてもやつてみようと考えました

皆様、先月にはいろいろ多方面にわたりご心配をお掛けしました。現在はリハビリ病院に転院をして回復を目指しています。日々両足のリハビリをして、コルセットをしていれば痛みや痺れもなく歩いています。日々当たり前に出来ることが増えてきてありがたい限りです。不思議の連続での今だと感じ、私にもまだするべき用事があるのだと思います。皆様の所へ直接行かせて頂くにはもう少し時間がかかりますが、この日々の貴重な経験を通しておたすけ人として活躍出来る日を目指します。

仕事が忙しくて時間がなくとも、人のたすかりを願い、思いをかけることはできます。その心の動きを見て親神様、教祖はお喜び下さいます。

仕事が忙しくて時間がなくとも、人のたすかりを願い、思いをかけることはできます。その心の動きを見て親神様、教祖はお喜び下さいます。

仕事が忙しくて時間がなくとも人のたすかりを願い、思いをかけることはできます。その心の動きを見て親神様、教祖はお喜び下さいます。

瀬戸路分教会に繋がる葛城分教会の会長交代は変化の旬であります。この旬を逃すことなく、皆様と共に道の歩みを進めたいと思つております。

未熟ながらも一生懸命つとめさせていただく決意でございますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。



# すなお (立教185年6月号)

通 卷  
登 行 所

№743

天理卷

794-0

10

FAX

登行

## 九 一 官

— 8 —

瀬戸路今

07 今

089

089

日 202

202  
苗治

天 语

三つ目は、「対話すること」です。3年前から大阪での仕事が始まり、だんだんと愛媛の父母に連絡を取ることが少なくなっていました。コロナウイルスの影響も少なからずありますが、どこか仕事を言い訳にしていた自分もいるなと反省しております。大切な家族を思い、何気ないコミュニケーションを大切にしようと思えるようになりました。

これからは、大きな節を見せてもらってからではなく、何気ない出来事から「神様からのメッセージ」を汲み取り、日々の信仰生活に生かしていこうと思います。



## 風を楽しんで

田中 道則

5月29日に葛城分教会の会長就任奉告祭がつとめられました。前会長さんと真介会長さんが日は違いますが、瀬戸路に足を運んで下さり、思いを伝えて下さいました。奉告祭の前に立て合った会長さんの怪我という節、これは瀬戸路につながる自分達にとっての節目だと思います。

葛城の前会長さんは「変わる」という言葉を繰り返しお話しさされました。教会、家庭、職場において新しい風が吹いているように感じます。この風を自分なりにどう受けて、また新しい一步を踏み出していけるかが大きなポイントであり、旬だと思います。古い考えに囚われ過ぎず、風を楽しんでつとめていきたいです。

## 教会ニュース

### 葛城分教会会長就任奉告祭報告

先月29日執行された奉告祭には、奥さん、田中光代さん、松浦直人さん、野間龍二さん、矢野道子さん、曾我部健二さん、好美さん、山本健司さん、二宮真悟さんがおつとめ奉仕者として瀬戸路の代表としてつとめて下さり、矢野祐也さん、さくらさんが参拝して下さいました。

### 編集後記

会長さんから子供のおつとめ総会の話と、葛城の就任奉告祭の話をいただいた時に、葛城の就任奉告祭に帰らしてもらいました。夫婦で因縁のある教会であること、また自分たちが何かを感じ、何かさせてもらえる事はないだろうかと思い帰らせてもらうことにしました。おつとめもておどりをさせて頂きました。いつもより緊張しましたが、無事つとめることができました。心に残る就任奉告祭になりました。（編集者K）



### 葛城分教会10代会長就任奉告祭に 参加させて頂いて。

田中 光代

感動した事が多くて会長様のすなおの原稿依頼に即「はい」と返事してしまいました。葛城の教会の上段で座りづとめのすりがねをさせていただきながら「長生きして良かった」と心から思いました。こんな栄誉な事はありません。又、大教会長様のご祝辞があり、前会長様のご挨拶ではこれからもしたい事が一杯あると聞きました。

新会長様からは10代目という事で歴代の会長様方のお話を聞かせて頂き、126年目にして初めて親から子へ会長職を譲られた事感動しました。前会長様ご夫妻が37年間通ってこられた賜物と感謝です。

前会長様が3日前から豆を煎り自ら豆を挽いて一生懸命私達をもてなして下さったコーヒーの味は忘れません。新会長様のこれからのご活躍を応援すると共に前会長様のご活躍を楽しみにしています。

追伸：松浦直人さんの車で楽しくおぢば帰りできた事、改めてありがとうございました。



### 神様からのメッセージ

二宮 真悟

皆様大変ご無沙汰しております。いかがお過ごしでしょうか。わたくしはおかげ様で元気に過ごさせて頂いております。手短に近況報告をいたします。大教会青年、専門学校を経て、園家として働き始めて3年目になります。大きな現場を任せられることも多くなりましたが、まだまだ半端者ですので精一杯精進していこうと思っております。

本題に入ります。今回の父の節が神様からのメッセージだと感じ、就任奉告祭に出席させていただきました。その時に感じたこと、学んだことを手短に三点にまとめてみました。最後までご一読いただければ幸いです。

一つ目は「感謝をすること」です。何不自由なく働くことができる身体、私には十分すぎる環境。一見、当たり前のことだと勘違いしがちな事々に気付くことができました。

二つ目は、「自分の役割を理解すること」です。私は長男、教会子弟、弟子と多くの役割と立場があります。今の自分ができる最大限のことは何なのか。を今一度考える必要があると思いました。（次ページへ）